

緑は生命の色、 育つ色、循環の色

社名はインフォテリア。インフォメーション×カフテリア。データを自由に選んで使える世界をつくりたい。名前に思想を込めました。ただ製品が出来上がるまでには時間がかかる。開発にはお金がかかる。そこで私が採り入れたのが、当時の日本ではまだ馴染みの薄かったベンチャーキャピタル。未来を語り、応援してくれる投資家を集める。いまでは当たり前ですが、当時の日本ではまだ育つてなかった。シリコンバレーでは株券の金額の10倍くらいで売るのも珍しいことではなかったのですが、私は控えめに5万円券面の株券を20万円で売ったのですが、「非常識だ!」「ありえん!」と最初は周りから相手にされませんでした。ところが、ある外資系ITの経営者は「わかるよ」と理解してくれた。ひとりまたひとりと投資が増えていきます。最初は非常識だと言っていた人も、出資者の顔ぶれが見え始めると空気が変わり、想定以上の資金を集めることに成功しました。

ただし資金調達はゴールではありません。むしろ地獄の入口かと思うくらいです。開発は予定通りには進まず売上はなかなか立たない。優秀なエンジニアを集めたので人件費はかかり、残高がどんどん減つていき2002年頭には倒産直前の大ピンチ。お金はあと3ヶ月分しかありませんが、開発中の製品の出荷までには6ヶ月かかる。毎月の費用を半減させなければ製品出荷前に倒産です。そして、私は今でも一番辛い決断をしました。社員を半分に減らすと。多くの仲間に会社を去ってもらいました。六畳一間で語った未来。家庭を抱えながら入ってきた社員の覚悟。眠れない夜が続きましたが、製品を出すことを優先しました。

そこから会社は墜落寸前で上昇を始めま

す。2005年に黒字化し、2007年に東証ザイズ上場。以降製品を増やし、中国子会社(2012年)、シンガポール子会社(2014年)、アメリカ子会社(2019年)と世界に進出します。そして2018年、東証一部上場と同時に社名をインフォテリアからアステリアに変えました。20年使った名前です。簡単に変えられるものではありません。けれど名前とは「旗」。旗が違えば進む方向が変わる。私たちは世界へ行き、日本のソフトウェアが世界で通用することを証明する。先駆者として道を照らす。アステリアは「アメリカのメジャーリーグで活躍する日本人」という道を拓いた野茂英雄さんを目指しています。そしてアステリアのあとにはイチローさん、大谷翔平さんのような大活躍する日本の企業が続いてほしい。ところで、アステリアとはギリシャ語で『星座』を意味します。点を結び、新しい形をつくり、新しい価値を生む。まさに私たちの存在そのものです。コーポレートカラーは緑です。会社の創立は1998年でしたので、21世紀目前でした。私は「21世紀を代表する会社にしよう」と夢を持っていました。そこで、コーポレートカラーも「21世紀を代表する色」は何かと考えて緑にしました。緑は生命の色、育つ色、循環の色。つながって巡ってまた芽が出る。だから私は会社にも21世紀を代表する緑をまとうせたかったのです。

人生の最後の仕事は、 みかん畑です

私を突き動かす原動力は2つあります。ひとつは父。勘当されたあの日から「よくがんばったな、そちの道を選んでよかったな!」と言ってもらい続けた。でも結局、私が聞いたかった言葉は聞けないまま父は亡くなりました。もうひとつはマイコンショップ社長の「平野君は作ることにしか能がない!」という一言です。

社長を見返すためにマーケティングを学び、結果として今がある。あの一言がなければ、私は今も熊本でエンジニアだったかもしれない。矛盾みたいですが、私はこの二人に育てられたのだと思うときがあります。人生って傷が道になるのかもしれない。人生のエンジンって、たぶん「美しい動機」だけじゃない。悔しさや未練やひつかり。それが火種になることもある。私はその火をずっと消さずに持ってきたから、そ今があるのだと思っています。

会社は息子には継がせない。最初からそう決めています。世界をリードする会社になるから世界で一番適した人に継いでもらう。たとえ息子が優秀でも、周囲は「息子だから」と見てバイアスがかかる。世界で一番適した人が息子である確率は限りなく低い。だから息子にいつも言っているのは「自分で稼げ」。何をしろとは言わない。息子はいまアメリカの大学にいます。そして人生の最後の仕事は、みかん畑です。冗談みたいに聞こえるかもしれませんが、私にとっては本気の未来です。うちのみかんはうまい。本当にうまい。あれを絶やしたくないのです。世界へ行くほど、足元の土の匂いが恋しくなる瞬間がある。熊本の空気、斜面の畑、手のひらの土。あの場所が、私のエンディングに必要なのだと本気で思うのです。私の手相の生命線は130歳を示しています(笑)。だから人生はまだ半分です。世界へ行く道筋、若い世代が走る、ことのできる道筋、そしてみかん畑に戻る。35歳で会社を立ち上げたときの予定は、40歳上場、45歳世界、50歳リタイア。ところが今62歳。遅れまくっているのです。思えば私の人生は、ずっと「つなぐ」の連続でした。熊本と東京を。ハードとソフトを。開発とマーケティングを。六畳一間と東証一部を。みかん畑と世界を。点と点がつながった瞬間、火が灯り世界は少しずつ明るくなる。その瞬間を私はこれからも増やしたい。挑戦する人の背中にもう一本の線を引くために。「つなぐ」から、未来はひらく。この言葉を胸に、私は今日もまた裏側で火を灯し続けます。

from IL SARTO

装いは無言のプレゼンテーション。 その人の生き方そのもの。

平野社長がグリーンを纏う姿は、単なるコーポレートカラーではなく、アステリアの哲学そのものを常に体现されている姿そのもの。言葉で理念を語る方は多くいらっしゃいますが、それを装いにまで昇華させ日常の中で一貫して表現されている姿は、まさに経営者の覚悟の現れ。強い意志と美意識の結晶を感じます。だからこそ平野社長のスタイルには、深い共鳴と敬意を抱いております。これからもその鮮やかなグリーンとともに、独自の価値を世の中に届け続けてください。その背中から発信されるメッセージを、楽しみにしております。



点を結び、
新しい形をつくり、
新しい価値を生む